



TITLE:

各地よりのたより

AUTHOR(S):

CITATION:

各地よりのたより. 天界 1939, 20(223): 21-32

ISSUE DATE:

1939-10-25

URL:

<http://hdl.handle.net/2433/167892>

RIGHT:

君は變光星の觀測研究に専念始終せられた。駁者座、小狐座附近の變光法則未知星の觀測は大學在學當時から其後に亘つてなされたもので主に花山ブレテン結果の要が發表されてゐる。白鳥座 SS 型の星の觀測研究は大學時代以來長く引き續いてなされて居り、近年は木邊、小澤、杵掛等の諸君も協力觀測せられ、東亞天文協會關係の觀測者の仕事として最も重要なものであつた。その結果は花山ブレテンの他ドイツの雜誌アストロノミツシエ・ナハリヒテンにも發表され、その別刷は倉敷天文臺の報告第一號として發表されてゐる。

東亞天文協會員變光星の觀測は同君によつて取り纏められ、時々花山ブレテンに發表され、又本年 6 月には「東亞天文協會變光星報告」第一號が發表された。その大部な原稿の整理、謄寫版原版の調製、印刷等に多大の努力を費された事を想像する。

終りに東亞天文協會關係の變光星觀測者の方々はよく小山君の遺志を承けて變光星の研究上有力なる觀測資料を學界に提供せられん事を希望するものである。

小山君が前途有爲の身を以て業半ばにして不歸の客となられた事は、我が變光星學界のため誠に惜みても餘りあるもので、今や熱心なる後繼者の輩出が望ましい次第である。(2598—8—31)

大阪プラネタリウムだより

□今夏の恐ろしい旱魃は、都會にも直ちに影響し、科學館では率先して、プラネタリウムのドーム内の冷房を中止し、エレベーターも一臺限りにして、極力電力を節した。このためドーム内は、満員の際は室温 34°C にも昇り、星空の説明には何とも似つかぬ雰囲気であつた。

□8 月中は、夜間公開と相俟つて、度々「天文趣味の夕」が催され、佛教上の宇宙觀あり、俳句に現はれた星の話あり、星に纏がる行事、傳説などあつて夏の夕べは賑やかであつた。

□9 月は爽快な秋空を仰げばとて、23 日と 24 日の兩夜、天文協會大阪支部の應援で、「月と木星」の觀望會を開いた。尙 24 日は宮森支部長の「月を語る」講話もあつて、楽しい「星」の一夜であつた。

9 月 28 日、錦曜クラブの方々が、プラネタリウムの名月を尋ね、夜に入つて「世界各地の月」について、座談會を催されたのは愉快であつた。

□10 月 3 日午後、科學館の電氣館とプラネタリウムとから、全國の小學校へ見學中繼放送を行つた。(10. 4. 高城)

各地よりのたより

紀伊支部七・八月報告

(1) 七月23日21時より23時迄和歌山高商20棟反射にて観測會開催。参加者山本(高商)、野村、島田3名にて非常に熱心に火星及木星を観測。

(2) 七月29日20時より24時迄高商にて火星観測會。小楨課長を迎へて高商加川教授、協會側小楨、山本、野村、學生2名、他1名にて甚盛會なりき。

加川教授及山本君シルチス附近のスケッチをさる。小楨支部長この夜和歌山市一泊。

(3) 七月30日12時より小生宅にて小楨、山本、島田、野村4名にて座談會。昭和6年以來紀伊支部員がこれ程集りたる例なし。和かな中に話がはずみ19時迄續行。今後の發展を企畫す。この夜8時小楨課長東和歌山より金屋へ歸らる。

(4) 八月6日20時より島田氏宅にて觀望會。島田氏の58ミリ五藤屈折機にて火星その他を見て24時終了。

この他12日土曜日金屋にてペルセ觀測に課長の御指導を仰ぐ筈なりしも都合にて中止せり。九月に入りて又新に活躍を始める計畫御援助願ひます。(八月24日、野村記)

米 國 だ よ り

啓上。永らく後無沙汰致しました。本日着の「天界」にて奥様が御重患だつた由拜見、誠に驚き入りました。遅ればせ乍ら御見舞申上げます。御快方に向はれた趣、不幸中の幸と存じ、一日も早く完全に御回復なさる様、遙かに祈つて居ります。

私事御蔭様で至極元氣で、既に丁度一年を當地に過しました。天文臺の人々にも、風俗にもすっかり慣れて非常に愉快にやつて居りますから、御安心下さい。

七月始めから Summer school が始まり、ヨロツパから Rosseland, Freundlich, Oort 氏等が見え、連日講義をする、頻繁に會議をする等、非常に賑かでしたが、今月半ばで終り、聽講者も歸り、天文臺の連中も休暇をとつて出掛け、今は非常に静かです。

Rosseland 氏は恒星の内部構造の問題を抜萃して講義、Freundlich氏は天體力學の一般問題を少しと、球狀星團の力學、日食時のアインシュタイン効果の問題を、Oort 氏は銀河系の色々な問題、特に星の固有運動、暗黒星霧等につい

て話しました。

御承知でもありませうが、今年になつてからドイツから Dr. Prager 氏が、イタリイから Jacchia 氏が、共に民族問題で當天文臺へ來まして、今共に變光星の仕事に従事してゐます。昨年から Milton Bureau と稱する變光星の機關が出来まして、相當多數の人が此所で働いてゐます。仕事は主として今迄の寫星乾板で徹底的に調べ上げるといふものゝやうです。兩氏も勿論之に屬してゐます。

私の仕事は、流星の寫眞同時觀測から實經路、軌道を計算するもので、既に牛座流星群、双子座流星群に屬する夫々數個の計算を終了しました。まだ少し残つて居ますが、此の秋から流星寫眞についての他の問題を扱ふ様になると思ひます。此の外に變光星をやつて居ります。唯今特定區域の新變光星を扱つて居りますが、豫想以上に深入りした爲、今年一様で片付くかどうか疑問です。此の秋から Oak-Ridge station で變光星の或種の觀測を始める 豫定であります。

先週から歐洲の危機で、此所らの連中も幾らか落付かぬ模様です。此の夏バリの學會へ出席した Gaposchkin 夫妻が昨日歸つて來ました。一寸挨拶しただけで、まだ詳しい話は聞いてゐません。

日支問題も前途多難で氣にかゝりますが、堂々と踏みかまへて行きさへすれば吾々の理想は必ず實現出來ると信じてゐます。異國の空氣を吸つてゐると、こうした専門外の方面に言ひ度い事が澤山出來て來ますが又の機會にします。

又時折御便り致します。皆様の御健康を祈ります。 草々

八月 31 日

古 畑 正 秋

山 本 先 生

堅 田 だ よ り

★蝎星座のしつぽの星が彼方大津の上にくると巻いて光つて居る夜を、麗湖畔には鳩の聲しきりである。又早起きをすゝめる様に、八月の東江州に、日出少し以前、冬のオリオンが賑はしく昇つて、見てゐて寒さを連想させるので、居乍ら夏の三伏の暑さをふつ飛ばさす特効がある。

★フオール標準色の湖色番號では藍黃色 (IV) の麗湖美の魅惑は輕快なヨットの跳躍に誘はれる。20年來と言はれる大減水で、川は干上り、淺瀬の溫度が高くて、肝腎の湖魚の産卵が阻まれて居るが、西瓜の豐年は積亂雲の膨脹に比例して、水泳客の亂舞するこのごろである。

★堅田町の北方町續きの今堅田には新田義貞公の夫人勾當内侍の墓がある。碑

に曰く「句當内侍左中將義貞公之夫人也。公結纓後來於此辭世云、内侍會潛出嶋深怨兼湖海幾十尋、艷姿映水數株柳人道衣來鼓瑟琴」と。義貞公が越前の國で戦死をとげたのを洩れ聞いた内侍は一夜侍女の慰めの琴の妙なる音を脱け出して、麗湖に入水して終つた。里人達は残された文等と偕に怨ろに亡骸を葬り今では野神神社として祀られ、圓い數個の石が墓地を確保して居る。毎年十月には小やかな乍ら祭禮が營まれて居る。

★近江の國は昔しから天文と特に縁古が深いやうだ。先づは紀伏筆太陰圖は東江州、坂田郡宮川藩主堀田氏出の紀正民が文化十年(1813年)の仲秋満月の夜に寫したと傳へられるもの、丑いで家職鐵砲鍛冶と花火製造よりも寧ろ晩年天文研究に傾倒し、反射鏡の製作や太陽黒點の實地觀測に異常な天稟を發揮したのは長濱に近い國友村に天文家國友能當が安永七年(1778年)に呱呱の聲を上げた所、昭和七年末天死したが、其の鋭眼な觀測と國產の中村鏡を残した中村要は西江州堅田より2軒北方の近時遠浅で名高い眞野水泳場のある眞野村の出身である。いはずもがな本會々長山本一清博士並水釋緯度觀測所の川崎俊一氏(山本會長夫人令弟)は東江州、栗太郡田上の産、本會理事で木邊鏡で有名な木邊成磨氏、更に更に近江より湖の幸の様に天文界に貢獻する先輩の族出せんことを願ふや切ではある。

雲の峰ふまへて高し十字塔

★滋賀縣神崎郡御園小學校では北川訓導を中心に、大阪プラネタリウムとも連絡して、趣味の天文を生徒間に學習教育して來たが、昨今青年學校男子部も大いに乗り氣になり、終に“御園天文同好會”が組織された。これも悦ばしいニュースである。
(佐登兒誌)

南方低緯度を觀測する

本會臺北支部で10纏屈折式赤道儀(時計運轉)を活用して、近く觀測班を設け、南方低緯度の優位置を利用して、主として南方天體の觀測に活躍する由。因みに、支部長は 臺灣氣象臺技師 窪川一雄氏

會員數は 内地人、本島人合せて93名である。(急報 378)

倉敷天文臺見學行盛況

去る八月19日夕より大原農研講堂にて山本會長及び原名譽臺長の講演あり、續いて百餘の熱心なる參集者によつて倉敷天文臺にて珍客「火星」が夜更けるまで熱心に觀望された。(急報 373)